



TITLE:

京大広報 No. 254

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 254. 京大広報 1983, 254: 375-378

ISSUE DATE:

1983-05-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209432>

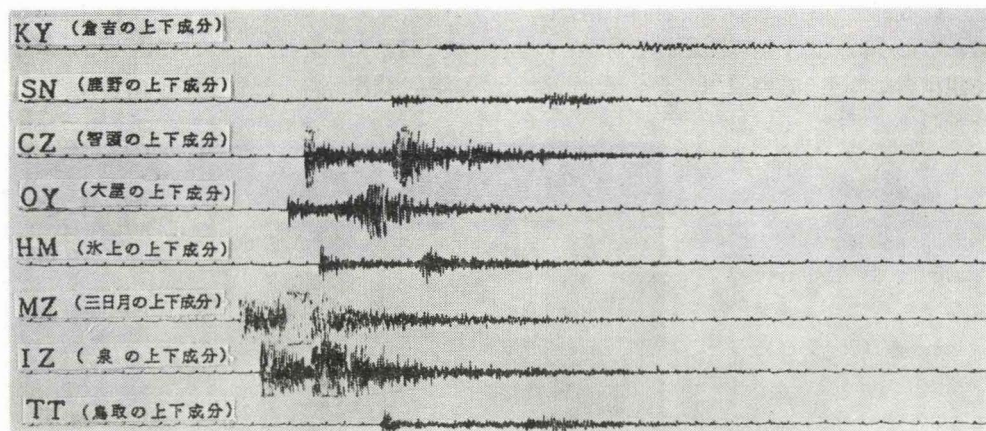
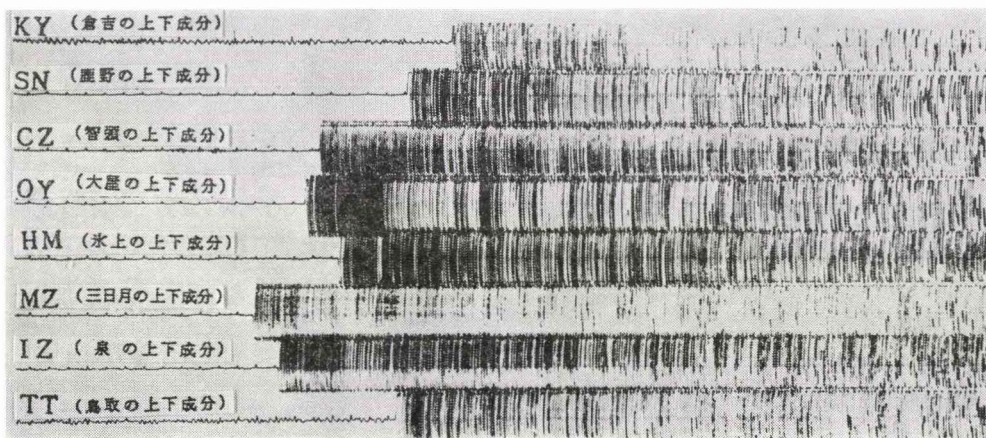
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 254

京都大学広報委員会



山崎断層の地震(1977年9月30日, マグニチュード3.7)の記録
地震予知の諸観測で前兆現象が見い出され, その予知にほぼ成功した。
写真上が本震, 下が余震

—関連記事本文 376 ページ—

目 次

部局長の交替	376
＜紹介＞	
防災研究所の地震予知研究	376
日誌	377

訃報	377
＜随想＞	
京大の一隅で	
名誉教授 小野寺幸之進	378

＜大学の動き＞

部 局 長 の 交 替

ウイルス研究所長

3月13日松本清一ウイルス研究所長が逝去され

たので、その後任として花岡正男ウイルス研究所教授（病理研究部門担当）が5月1日任命された。任期は昭和60年4月30日までである。

＜紹 介＞

防 災 研 究 所 の
地 震 予 知 研 究

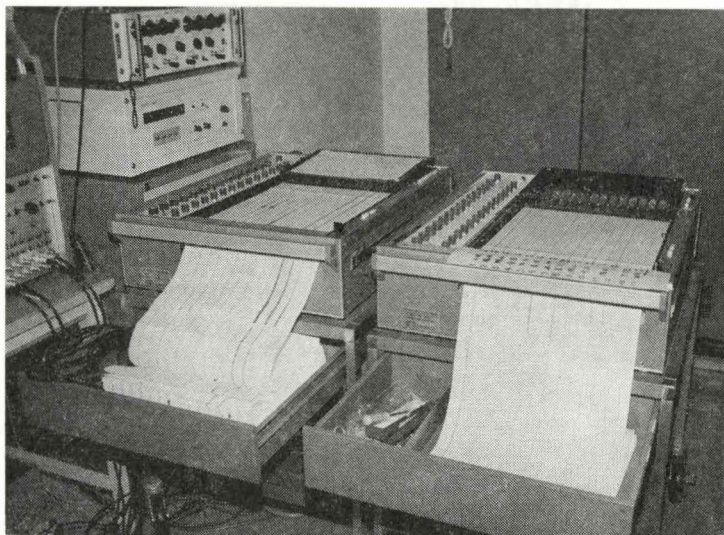
防災研究所の地震予知について、前回紹介したのは、本広報 No. 156 (1978. 4. 1) であった。昭和53年は地震予知第3次5年計画(49年～53年)の最終年であったが、今年はその次の第4次5年計画(54年～58年)の最終年に当り、その間丁度5年が経過したわけである。前回の紹介に引き続き、今回は主に最近5年間の進歩について述べよう。

我が国の地震予知計画が国家事業であり、諸大学・官庁諸機関が密接に協力し、諸分野を分担して研究を進めていることはいうまでもない。大学が分担している研究の主なもの、前回の紹介にも述べてあるように、微小地震や地殻変動などの観測所や観測網における常時観測を土台とする研究、移動観測班等による、地震に関連する諸現象一地殻の変形・重力・地磁気・地電流・地下水・放射能など一の観測・研究及び理論的研究を含む各種の基礎研究等であって、本研究所でも鋭意これらの研究を進めている。

第3次5年計画における大学の最大の仕事は、微小地震および地殻変動観測のテレメーター化であった。これについては前回詳しく紹介したが、これによる観測の向上は飛躍的であった。第4次5年計画では、これを更に発展させて、全国的な地震データ流通システムの建設が進められている。即ち、テレメ

ーターによって集中される地震観測データを、自動処理システムによって直ちに震源位置やマグニチュードその他の震源情報を出力させ、更にそれらをオンライン・リアルタイムで、東京大学地震研究所に設けられた地震予知観測情報センターに伝送して、全国の微小地震常時監視を行なうと共に、これらの情報のデータベースを作成して研究に役立てようという計画である。本研究所では、鳥取・北陸・上宝各観測所の微小地震データが宇治市の研究所本所にテレメーターで集中記録されているが、57・58年の2年計画で自動処理システムの建設が進められており、来春完成の予定である。

地殻変動研究では総合観測線計画が進められている。この計画は、各大学が日本列島を横断する細い带状地域を設け、それに沿って、地殻変動その他の観測計器を配置し、テレメーターで集中観



14チャンネルモニターレコーダー

比較的大きな地震が発生すると磁気テープとともに記録紙にも記録される

測を行なうもので、地殻変動の広域的な時間・空間的特性を調べ、地震発生をもたらす造構応力の動態を探ろうというものである。本研究所では、飛弾、北陸から琵琶湖西岸を経て和歌山県北部に到る北東-南西線と、鳥取市から兵庫、大阪を横切って奥吉野地方に達する北西-南東線の2本の観測線がほぼ完成し、58年度中に全データが宇治市の本所で集中記録される。

58年度には、今までの極微小地震移動観測班が整備されて総合移動観測班となった。これによって、飛弾から中国までの広い地域の活断層を対象として、極微小地震、地殻変動、地下水、地磁気、地電流、放射能などの移動観測が開始される。

基礎研究では、先ずテストフィールド総合観測が挙げられる。テストフィールドとは、被害を伴わない程度の中規模地震が比較的多発する地域で多種類の観測を行なって、いわゆる地震先行現

象の性質を追究し、大地震発生予知を「実験的」に研究しようとするものである。53年に、山崎断層（兵庫県）が全国唯一のテストフィールドに指定され、本研究所を中心とするグループが研究を開始した。数年間の観測により、同断層に発生した小地震の予知にほぼ成功するなど大きな成果が挙げられている。

地殻活構造の調査では、活断層の試掘（トレンチ）が数か所で行なわれた。これは活断層を横切って深い溝を掘り、過去の大地震の時の滑りの痕跡を探し、大地震の長期予知に資するというものである。

以上のほか、地球電磁気学的研究や地下水の研究、地震発生機構などの基礎的研究が多数発表されている。59年度からは第5次5年計画が発足の予定である。

（防災研究所）

日 誌

（1983年4月1日～4月30日）

- | | |
|--|---|
| 4月1日 中華人民共和国北京大学外事処 倪 孟雄処長
外1名来学、本学との学術交流協定に関する
覚書交換 | 来学、総長及び関係教官と懇談 |
| 2日 名誉教授称号授与式
ク 退官教授懇談会 | 13日 組換え DNA 実験安全委員会 |
| 6日 同和問題委員会 | 18日 発明審議委員会 |
| 7日 医療技術短期大学部入学式
ク ドイツ連邦共和国ドイツ学術交流会 (DAAD)
Hubertus Scheibe 前事務局長外1名来学、
総長及び関係教官と懇談 | 19日 評議会
ク 保健衛生委員会
ク スウェーデン王国 Nobel 財団 Stig Ramel
理事長来学、ノーベル生誕150年記念講演会 |
| 8日 環境保全委員会 | 20日 国際交流委員会 |
| 11日 学部入学式
ク 大学院入学式 | 21日 アメリカ合衆国 Oklahoma 州 Spencer
Bernard 副知事外3名来学、総長及び関係
教官と懇談並びに学内施設見学 |
| 12日 ドイツ連邦共和国 Alexander von Hum-
boldt 財団 Heinrich Pfeiffer 事務総長、ド
イツ学術会議 Peter Kreyenberg 事務局長 | 22日 総長、職員組合 交渉
ク 防火委員会
ク 体育指導センター管理運営委員会 |
| | 27日 国際交流会館委員会 |

計 報

中西二三 絵（医学部附属病院看護部技官）

4月25日逝去、24歳。昭和55年から医学部附属病院勤務。

